

平成26年度 北海道男女平等参画チャレンジ賞贈呈式 懇談内容

日時：平成27年2月16日（月）16：30～

場所：知事会議室

森崎さん（釧路モカ女性プロジェクト）

始めたのが2011年で、ちょうど東日本大震災が3月に起こり、テレビの報道がそのことばかり放映している時に、女性の人たちが、震災被害者の方たちをハンドマッサージしていたというニュースを見まして、そこで命と命の繋がりというのをすごく感じたところがありました。今思うと、そこが原点だったような気がしています。

普段、私はハローワーク釧路のマザーズコーナーで、子育てや介護を担いながら家庭と両立した仕事探しをしたいという方々との個別予約相談をやっているんですが、この方はとても仕事を頑張れるだろうと思う方でも、（会社から）「小さい子どもがいるからちょっと遠慮してもらうわ。」ということで、本当につらい思いをしていることが多いけれど、とてもいいものを持っているので、大きな企業さんで働けないのなら、自分たちで何かやればいいんじゃないという簡単な発想だったんです。ただ、なかなか行政サービスの中では、それも横繋がりというのが難しいので、そこを繋がるような別の集まりを作ればいなというところから始めました。

一緒にやった最初の立ち上げメンバーは、その時に来てくれていた方だとかみんないいものがあるので、点と点を線でつなぐというところから始めて、自分たちで何か勉強をしようというところから始めたんですね。震災があってハンドマッサージをやっている人がいていなと、じゃあハンドマッサージを勉強しようとか、そんなようなことだったんです。

どこかの会議室を借りてやるにしても、シングルマザーや主婦だと、自分のお財布から出すのは大変なんですね。また、女性の集まりの難しさもすごく感じたところだったんですが、その分だけでも、自分たちでお金稼ごうかという発想で、当時ちょうど釧路のお土産物で釧路産で作っている物が、例えば、釧路空港でも全体の7%しかないという話を聞きまして、どうせ稼ぐのだったら、釧路っぽい物の方がいいねということになりました。

だったら、釧路は漁港でしょうと考え、その漁港らしい、魚の網を使った物を何かやったらいいねということになり、たまたま、アイデアが浮かんだのが、サンマ漁がまっ盛りの8月、9月とかそのぐらいでした。その頃はもうサンマ漁の網を、網屋さんが、サンマの漁師さんに作ってもう渡してしまっている後で、余り布があった時で、いただいた物で試行錯誤してやった物です。

それで、是非見ていただきたいと思って、実物を持って来たんですけど、これが写真のタオルです。魚網美人。中にはこんな物が入っています。ここで泡立てて、これを持って背中をこすという。これ、多分、10年以上もつんです。それで、なかなか売れなくて、実は困ったことになっています。

それはボディ洗いで、もうちょっと太い糸で作ったものです。こちらは台所用のたわしで、亀の子束子より傷つかないですし、ごぼうの皮むきも簡単です。知事に、是非これは使っていただけないかと思って持ってきました。

高橋知事

はい、ありがとう。これ開けてあったので是非。

森崎さん（釧路モカ女性プロジェクト）

これがチカなどを取る網なんですけど、これはプレミアムということで、もうちょっと泡立ちが良く、機械に巻いてもたぶんだいじょうぶです。

栗山さん（釧路モカ女性プロジェクト）

繊維の傷がつかないので、非常にお掃除にも使い勝手がよくて重宝しています。

森崎さん（釧路モカ女性プロジェクト）

そんな感じで試行錯誤して、今の形に落ち着いたんですけど、私たちは、会議場代ぐらいのものを稼げればよかったんですけど、周りのモニターで使ってもらった方たちから、「これはもう商品にしなよ」と言ってくれて製品化しました。ただ、そのときは、ちょうどサンマ漁が終わっていたので、余り布をいただけないので、今は買っているんです。

高橋知事

そうなんですか。

森崎さん（釧路モカ女性プロジェクト）

1回、ちょっと営業して回りましょうということで、漁協さんですとか、釧路の魚関係のところだとか、あとは市内のお風呂屋さんですとか、阿寒湖畔の鶴雅といった温泉、そういった所に、お願いして、市民団体が売っているのも本当に儲けはないんですけど、いろんな所に置かしていただいたという経緯があります。

高橋知事

空港のお土産物屋さんでの収益は高いですか。

森崎さん（釧路モカ女性プロジェクト）

空港は、最初デモンストレーションやりませんかって、空港さんから来たんですね。

高橋知事

ああ、そうですか。

川城環境生活部長

それはよかったですね。

森崎さん（釧路モカ女性プロジェクト）

JRもそうなんですけど、釧路のお土産物屋さんがすごく少ないということをお願いされたということがあって、そういう風に売れるということは、そこから繋がって子育て中のお母さんたちに内職をやっていただくことができてきました。とにかく、うちの団体は、別に事業体でも何でもないの、内職さんにたくさんお金が入るシステムを作りたいなと思ってやっています。

やりたかったのは、もともと人づくりというか、家庭にしながら自分の足でも社会に立ちたいという女性と社会とをつなぐという役どころをやりたいなと思っていましたものですから、今だんだんそういう形になってきたというような活動をやらせていただいています。

高橋知事

ご一緒にいらっしゃったお二人も、一緒に実際こういうものを作ったりするのですか。

相座さん（釧路モカ女性プロジェクト）

私はちょっと不器用で作れないので、違うところを担当させていただいています。

高橋知事

別のお仕事なんですか。

相座さん（釧路モカ女性プロジェクト）

そうです。私は人材育成ですとかセミナーですとか。

高橋知事

ああ、そうですか。そちらの方もありましたね。

相座さん（釧路モカ女性プロジェクト）

そういったことをやらせてもらっています。

高橋知事

もう一人の方は。

栗山さん（釧路モカ女性プロジェクト）

私は今札幌支部で札幌に在住なんですけれども、立ち上げの時には釧路におりまして、初期の頃は森崎代表の厳しい指導を受けて一緒に作っていました。

川城環境生活部長

魚網というのは、なかなか発想がいいですね。これは、普通は魚網と思わないですけども。

森崎さん（釧路モカ女性プロジェクト）

元々漁師さんの文化だったみたいなんです。

川城環境生活部長

そうですか。

森崎さん（釧路モカ女性プロジェクト）

切れっ端でこう身体を洗う。

川城環境生活部長

それは知りませんでした。

森崎さん（釧路モカ女性プロジェクト）

なので、月に1回、和商市場で売らせていただいたんですけど、漁師さんが結構来るんですよ。「こんな物、うちにいっぱいあるよ、昔からこうやって使っていた」と言われます。

川城環境生活部長

昔からそういう文化だったんですか。

森崎さん（釧路モカ女性プロジェクト）

そうなんです。商品化はたぶんしてなかったと思うんですけど。

高橋知事

そうですか。ありがとうございます。

福村さん（ダイナックス）

弊社は、1973年に設立して、今年で42年目を迎えました。

2002年に会社の中に「ダイナックスこどもくらぶ」を作りまして、近隣の企業さんからも何名かお越しいただいて、お預かりしております。

それと、会社内には畑もあり、子どもたちにお芋や野菜を作ってもらい、カレーを作ってもらって我々も食べたりするなど、子育てを支援しようということで、ずっと続けております。これからもいろいろ継続して取り組んでいきたいと考えております。

最近のヒットでは、「マタニティ&身障者用の専用駐車場」がございまして。弊社は工場の外に駐車場があり、女性から、駐車場から職場まで冬の間は非常にスリップして転ぶということで、転んで万が一の時に、妊婦さんがケガされると大変だという声があり、是非職場のそばに駐車場を作ってもらいたいという話を聞きまして、従来芝生を引いていたんですけど、すぐ芝生を取り払いまして、

駐車場を作りました。今現在、2名ほどご利用いただいて、職場まで通っていただいているということでございます。

人事制度については、国でもいろいろな指針がございますが、弊社は、少しでも働く方に有利になるようにということで、例えば、国の基準ですと短時間勤務が3歳までですが、弊社の場合は、基本的には小学校6年生までということで、かなり延長して女性に働きやすい環境を整えております。そのおかげで、今、短時間勤務利用者は、5名ほどいらっしゃいます。

また、育児休暇取得制度は、対象の女性は100%取得しております。このせいかどうかはわかりませんが、女性の勤続年数も平均よりもわずかに伸びているということで、より制度の充実を図って支援をしていきたいと考えております。

道主催のものづくり「なでしこ」ツアーも受け入れて、女性の高校生の方及びご父兄の方を会社にお招きして、いろいろご案内致しました。

高橋知事

（“ものづくり”でがんばる女性の紹介冊子「つくりこ」に掲載されている）この安部光さんという方は、明日か明後日の私との懇談会にいらっしゃるとか。

福村さん（ダイナックス）

ありがとうございます。喜んでやっておりますので、励ましてあげてください。

新入社員に占める女性の率は、今現在、だいたい3割ぐらいです。

資料に記した社員A, B, C, Dは、みんな女性で、海外勤務をしています。例えば、Aさんは、アメリカのデトロイトで約2年10ヶ月仕事をして、もちろん英語も堪能ですし、GMやフォードなどお客様と丁々発止やりながら、営業の仕事をしております。

CさんやDさんは、ベントの本拠地であるシュツットガルトにある弊社の事務所に駐在して、ベントの人を相手に受注活動を行っております。こういうところを是非女性の方にも門戸を広げていきたいと考えております。

先ほど弊社専務の実藤と話したのですが、最近の若い女性は海外で働きたいという方も結構おられまして、弊社に興味を示しておられる方も大勢おられます。そういう方も是非弊社に入ってきて、伸ばしていきたいと思っています。

あと、女性の管理職は少ないですが、次課長級に7名ほど昇格しております。

また、女子アイスホッケーの日本代表チーム「スマイルジャパン」の主将の大澤が弊社に入社しました。スペインのグラナダで、つい最近ユニバーシアード大会がございまして、銅メダルを取りました。アスリートも弊社で活躍を期待しております。

また、賃料はいただいておりますが、1998年からJR北広島駅のそばに立命館慶祥高校の女子専用の寮を弊社で建設し提供いたしております。

高橋知事

これも社会貢献事業の一環ですか。

福村さん（ダイナックス）

そうですね。

高橋知事

ここから優先的に御社に入ったりということは。

福村さん（ダイナックス）

いえ、全然そういうことはございません。女子専用の女子寮なので、どうぞご自由ということ

です。これは、知事にもご案内のように、2代前の社長の正木さんの頃から弊社としてずっとやっているもので、また交換留学生の支援もやっています。

こんなことから、弊社も、やはりずっと女性を支援しながら一緒に伸びていきたいと考えております。まだまだ制度的に足りないところがありますので、さらにプラスしていきたいと考えております。

高橋知事

ありがとうございます。ダイナックスさんは、自動車部品を世界のマーケットに売っておられる大企業さんという認識はあったんですが、女性にも優しい職場づくりをしておられるということはあまり存じませんで、お教えいただいてありがとうございます。

川城環境生活部長

このダイナックスさんの女性の取組で、新しい人材も入って来られたと先ほどお伺いしました。経営にもプラスですね。

福村さん（ダイナックス）

そうですね。おかげさまで、いろいろな方に入っていますので。

高橋知事

今、企業さんもどういう形で社会にアピールをしていかれるかっていう中で、今のファッションは、やはり女性ですからね、キーワードは。

福村さん（ダイナックス）

その通りだと思います。

高橋知事

釧路のモカ女性プロジェクトの方々は、女性のために女性自身が頑張っておられるということで、こちらは主として男性の方が女性のためにいろいろと支援をしていただくということで、多様な形で北海道の輝く女性プロジェクトを展開されていると本当に私、嬉しく有り難く思う次第でございます。ありがとうございます。

崎広副会長、こちらお2グループを顕彰対象だと思われたポイントみたいなものはあったんですか。

崎広副会長（北海道男女平等参画審議会）

釧路モカ女性プロジェクトさんの場合は、やはり自分たちで事を起こすっていうことの、そのエネルギーが決して大きなものではなくても、自家で自分たちでビジネスを起こすということは、今後の方向性の中で非常に大事にしていかなければならないシーズの1つかなというところを評価させていただきました。

それと、ダイナックスさんは、これは審査員満場で、こういった企業を是非道内の各企業は見習ってもらいたいということも強く言われており、そのところはすごく評価が高かったです。

高橋知事

そうですか。

是非今度、釧路参りました時に、現場に入ってお話をお伺いしたいですね。

森崎さん（釧路モカ女性プロジェクト）

是非お立ち寄りください。

高橋知事

みなさん、ありがとうございました。